

# 特色ある少数精鋭教育（専任教員：約30名）

# 博士前期課程の特色と 後期課程への深化

## 新たな学問としての多文化社会学を教員・学生がともに創る

- 人文社会科学、自然科学を問わず、存在論・認識論・方法論という学問の哲学的土台を、基礎必修科目群「学問のエレメンツ」を通じて徹底的に探究
- 人文社会科学系が本来有する、基礎的かつ汎用性を持った問題解決能力（批判力・構想力・実践力）を強化



## フィールドワークやインターンシップ等、海外での多様な実践の奨励

- 文化的かつ言語的他者とのコンタクトやインタラクションを通じた、卓越した語学力や情報収集分析力の涵養
- 多様性や環境への認識、文化や他者への共感の深化



## 世界トップクラスの研究図書館・博物館・大学等との連携

- 東洋文庫、国立歴史民俗博物館、ライデン大学、国際基督教大学（ICU）との連携や専門知を有する研究者からの研究指導や講義、セミナーの実施
- アジア・長崎からのグローバル・ヒストリーの捉えなおしを通じた、オリエンタル・スタディーズ分野の世界的リーダーの養成



## 歴史民俗博物館選択科目「総合資料学」

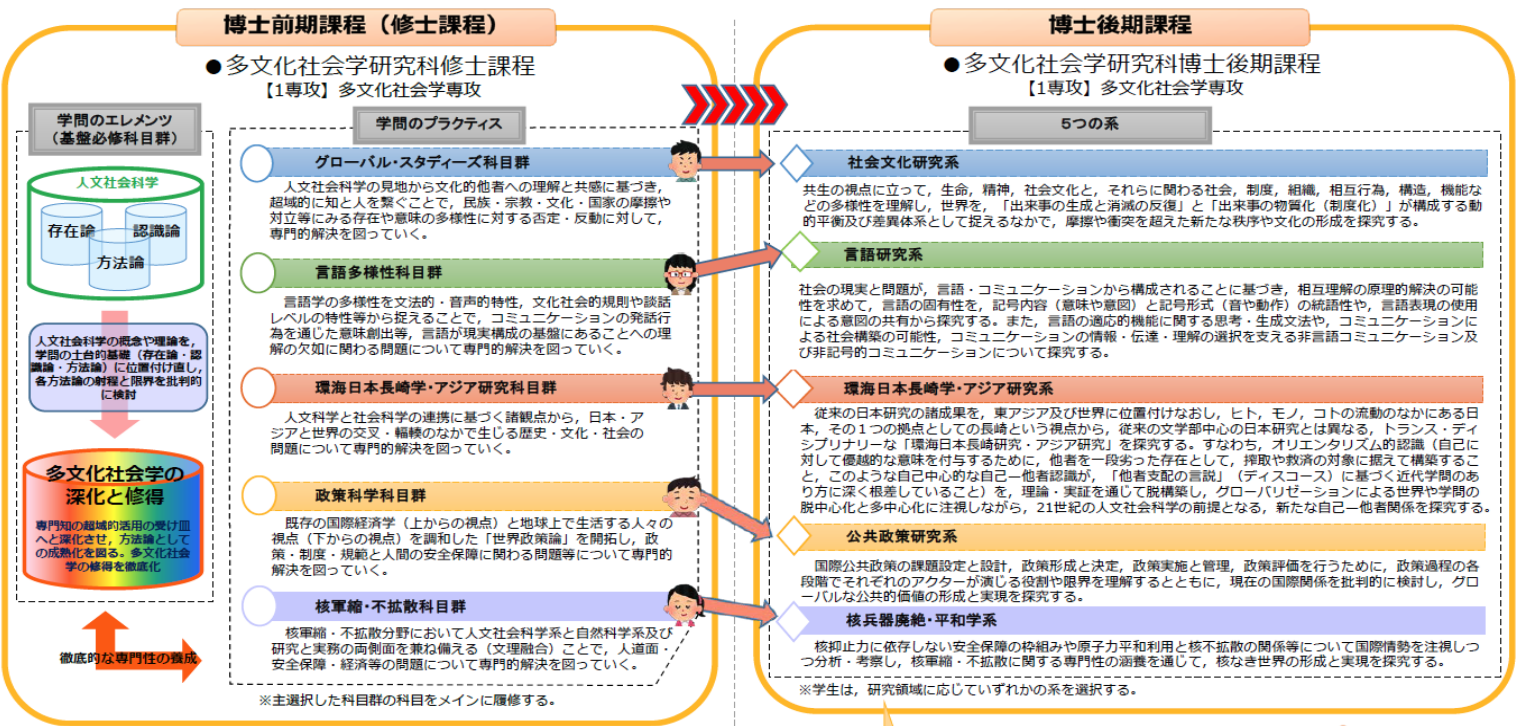
大学・博物館などが持つ資料を多様な形で分析・研究する「総合資料学」を、千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館にて、9月上旬に4日間の集中講義として開講します。博物館の在り方や、展示方法及びその背景にある研究成果について総合展示や膨大な収蔵資料・データベースを通して学んだ上で、各自対象とする「もの」資料あるいは事象を学び、専門家の助言を基に総合的に分析し、実際に展示構成のプレゼンテーションを行います。



長崎大学  
多文化社会学  
研究科  
スマホサイトへ



# 特色ある5つの科目群と博士後期課程進学への流れ



### 多文化社会学の超域的・俯瞰的な深化

学部の課題を発展的に継承し、超域的、俯瞰的な（学）である多文化社会学の専門性と実践性を更に深めることで、教育や国際機関、グローバル企業や国際記者、文化財関連の専門家などを養成し、変化著しい21世紀社会の更なる要請に応えていく。

- 多文化社会学のプロフェッショナルの育成
- 多文化社会学における「学問のエレメンツ」と「学問のプラクティス」の統合と展開を要し高度化
- 多文化社会学研究科修士課程の「科目群」を継承・発展させた系の編成

### 多文化社会学としての集大成

多文化社会学のより一層の高度化を通じて、研究者として自立できる独創的な知見と能力又は高度に専門的な職業に従事できる卓越した能力を養成する。「問題本質を見極める力」と「問題解決に向けた多様な解を提示する力」を深化させ、21世紀の学問に求められる価値の創生と普及及び生命、精神、社会文化の持続可能な世界の構築に資する、国際的発信能力を備えた研究者及び高度専門職業人等を養成する。